

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年8月20日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		8月の発生量 (平年比)	8月からの増減	9月の発生量 (平年比)	
カンショ	① ナカジロシタバ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	② イモキバガ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
（温州かんきつ）	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② 黒点病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
	③ そうか病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	④ アブラムシ類	やや少	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	⑥ ハダニ類	並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み
（タンカン）	① かいよう病	やや少	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② 黒点病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ そうか病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤ ミカンハモグリガ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移 (↘)
	⑥ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○9月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		8月の発生量 (平年比)	8月からの増減	9月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
マン ゴ ー	① チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↑	やや多	新梢の発生量が増加するため
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
ヘ チ マ	① ベと病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② うどんこ病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	③ ハモグリバエ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ ヒメクロウリハムシ	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移(↓)
	⑤ ミナミキイロアザミウマ	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
オ ク ラ	① うどんこ病	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	② フタデンミドリヒメヨコバイ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガ除く)	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	⑤ オオタバコガ	(発生なし)並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	8月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
か ん き つ	果樹カメムシ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。幼果では落果させ、肥大中期以降の果実では変形や褐変し、障害果を生じるため、早期発見・防除に努める。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年8月20日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		8月の発生量 (平年比)	8月からの増減	9月の発生量 (平年比)	
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	① マンゴーハフクレタマバエ	多	→	多	平年の発生量の推移（→） 新梢が発生量が増加するため
	② ハダニ類	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移（↓）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さと うき び	ツマジロクサヨトウ	8月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	サトウキビチビアザミウマ	7～8月にかけて宮古島の一部ほ場で多発生が確認されている。土壌改良区で多発する傾向があり、成育初期に被害が大きい。多発ほ場では葉が黄化する。初期発生をみはからって防除を行う。または、肥培管理を十分に行い、サトウキビの生育を旺盛にする。
マン ゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年8月20日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		8月の発生量 (平年比)	8月からの増減	9月の発生量 (平年比)	
水稲	① スクミリンゴガイ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
さとうきび	① バッタ類	並	—	—	
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	8月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲され、ほ場の調査でも幼虫が確認されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。